

ニュース映画に見る昭和史パート3

平和教育登戸研究所資料館見学



「ニュース映画に見る昭和史 パート3 (第1回目 1945年)」の中で講師から終戦前後の資料が多数廃棄されたことが紹介されました。現存する貴重な資料を見学するため、講座受講者限定の見学機会を設けます。案内は、当講座の山田朗さんです。現地集合・現地解散の、希望者による見学となりますので、参加ご希望の方は参加申込票をご提出ください。

日 時 6月25日(土曜日) 午前9時45分集合

正午ごろ見学終了、その後学生食堂で昼食(自由参加)

集合場所 明治大学地域産学連携研究センター1階ロビー前(裏面に外観)

小田急線生田駅下車南口徒歩10分



見学場所 明治大学平和教育登戸研究所資料館(集合場所ではありません)

神奈川県川崎市多摩区東三田1-1-1 明大生田キャンパス内

TEL/FAX: 044-934-7993

きりとり

明治大学平和教育登戸研究所資料館見学6/25(土)に参加します。

ふりがな

氏名

連絡先電話番号

参加申込票締切
6月8日(水曜日)
第5回目講義の日

9時45分 集合場所

明治大学地域産学連携研究センター1階ロビー



平和教育登戸資料館とは？

生田キャンパスに明治大学平和教育登戸研究所資料館が開館しました。登戸研究所は、旧日本陸軍の〈秘密戦〉兵器開発のための研究所でした。〈秘密戦〉とは、防諜・諜報・謀略・宣伝の分野の戦いを指します。登戸研究所の前身は、1919（大正8）年に設立された陸軍科学研究所で、1937（昭和12）年に同研究所「登戸実験場」が開設され、1939年に「登戸出張所」と改称され、さらに1942年には第九陸軍技術研究所と改称・改編されました。この「登戸実験場」から1945年8月に解散するまでを通して「登戸研究所」と呼ばれています。本資料館は、旧登戸研究所の実験施設（植物を枯らす細菌兵器の開発棟）をそのまま保存活用したものです。明治大学が旧登戸研究所の

跡地と建物を購入したのは1950年のことですが、そのこと自体は偶然のことです。明治大学が旧陸軍の施設について残さなければならない義務はないかもしれませんが、しかし、そうかといってこうした戦争遺跡を所有者である明治大学が意識的に残さない限り、このような戦争の暗部、裏面史は歴史から永久に消えて無くなってしまふ恐れがあります。私たちは、科学研究が「戦争」という大義名分のもとで、人間性を失ってしまった事例として、登戸研究所のありのままの姿を現在・未来に語り継ぎ、戦争と平和を考え、科学研究のあり方を自省する場としていきたいと考えています。どうか当資料館を見学していただき、戦争の裏側から、戦争の本質、日本が行った戦争の全体像を実感していただきたいと思います。

館長よりご挨拶



館長・山田 朗（やまだ あきら）

東京都立大学大学院博士課程，同人文学部助手をへて1994年より明治大学文学部助教授，1999年より教授，博士(史学)
主著：①『軍備拡張の近代史-日本軍の誇張と崩壊-』（吉川弘文館，1997年），②『昭和天皇の軍事思想と戦略』（校倉書房，2002年），③『世界史の中の日露戦争』（吉川弘文館，2009年）など